

令和元年度 第1回碧南市総合教育会議 会議録

1 日時 令和元年6月27日(木) 午後3時30分から午後4時37分まで

2 場所 碧南市役所4階 庁議室

3 出席者

(1) 碧南市長

(2) 教育委員会

委員 高橋世利子、委員 池田香代子、委員 伊藤正幸、委員 磯貝暢宏、
教育長 生田弘幸

(3) 事務局職員

総務部長 金沢宏治、教育部長 奥谷直人、経営企画課長 生田和重、経営企画課主
幹 村松幸雄、学校教育課長 鈴木 裕、経営企画課課長補佐 中川知之、経営企画
課政策推進担当係長 亀島有香

4 傍聴者 0人

5 議題

(1) プログラミング教育の実施について

(2) 不登校の状況・対策について

(3) 意見交換

市長あいさつ

(市長)

こんにちは。日頃より碧南市の子どもたちのために色々な形でご尽力いただきましてありがとうございます。まずは小中学校へのエアコン設置の状況についてですが、ガスエアコンを設置する3小学校については入札が終了しております。あと残りの小中学校についても今後入札を行い、今年度中に設置をする予定であります。

オリンピック関連では有望選手が6人ほどいるということで、碧南市始まって以来の嬉しいことでもあります。また碧南工業高校がビーチバレーで全国大会へいくという嬉しい話もありますので、皆さんで盛り上げていきたいと思っております。

議題(1) プログラミング教育の実施について

学校教育課長が資料に基づき説明した。

(プログラミング教育で使用予定のソフトを使用してデモンストレーションを実施)

(市長)

委員のみなさん、ご意見等はございませんか。

(委員)

小学生の段階でパソコンの利用を推進することは、文字を書く機会が減り、字を覚えることができなくなってしまうのではないのでしょうか。また、パソコンにはまってしまい、体を動かすことが減ってしまうのではないかとということが少し心配です。

(教育長)

文部科学省が推進していることが大雑把にこんなものだということを知っていただき、委員のいわれることやご心配もわかりますので、おさえるところはおさえながら、進めていきたいと思っています。夏には商工会議所さんと合同で教師の研修会を開きます。

(委員)

2ページに碧南市教育研究室的取り組みと書いてありますが、教育研究室的のメンバーはどのような専門的な方々で、何人ぐらいの組織で取り組んでいるのでしょうか。

(学校教育課)

各校1名ずつの12名に、研修指導員の先生1名を加え、事務局の指導主事1名を加えた合計14名で構成しております。先生については、中学校ですでにプログラミングを実施している部分もあるので、技術科の教科指導員の先生や、技術の免許状をもっている先生を選ばせていただいています。小学校でも技術の免許を持っている先生もいるのでその先生や、数学、理科の先生も選んでおります。また最後に研究紀要にまとめていくという点や、まったく精通してない先生の意見も欲しいということもありますので、国語の免許状をもった先生なども加えております。

(委員)

子どもたちを見ているとこういう(プログラミング)教育は必要なのかと思ってしまいます。自分達ではもうついていけないので。

(市長)

子どもとは不思議なもので、教えなくてもできてしまうものですよ。知らないうちにマスターしてしまいます。大人が子どもに教えるために苦勞して研修を受けることになってしまいかも知れませんね。

議題(2) 不登校の状況・対策について

学校教育課長が資料に基づき説明した。

(市長)

委員のみなさん、ご意見等はございませんか。

(委員)

不登校・ひきこもりについては家族も精神的にかなりまいってしまっているのでは、と思います。すぐに相談できる窓口があったらいい、といつも思っているのですが、学校以外でもあればいいなと思います。誰にどういう風に相談してよいかわからない方もいるのではないかと、思います。そういう心理臨床相談室みたいな場所を作っていただけるとありがたいと思います。高校に行っても、中学卒業してからも不登校というか、学校へ行けなくなってしまった子もいるという話は聞いているので、そういう子たちも行けるような場所があると良いと思います。

(教育長)

小中学校の児童・生徒に関しては臨床心理士が常駐している教育相談室があります。これは保護者の方には周知しております。学校に相談に行けばカウンセラーがおりますのでカウンセラーが相談にのります。保護者の方も子どもも積極的に相談しない家庭に対しては、巡回型カウンセラーを急遽配置いたしました。現在は試験的にやっております。うまくいけば人数を増やしたいと思っております。

(市長)

中学校を卒業した生徒の対策はどうですか。

(教育長)

中学卒業した生徒も教育相談室に相当きています。高校生ぐらいまでは現在も相談に乗っ

ています。あくまでも小中学校、幼稚園児が中心であるが、あとはつながりの中で受けています。

(教育部長)

中学校からのつながりの中で、教育相談室で相談を受けている生徒は個別対応しております。全体の国の動きはどうかというと、ニート対策・ひきこもり対策ということで若者支援として市では生涯学習課が相談窓口をお知らせすることはありますが、市として相談を受けるといような窓口的なところはありません。各市も同様で、社会福祉協議会との連携の下、こういうところがありますよとご紹介させていただけるようなところは持っていますが、実際に模索している状況であります。国が言っております若者対策、ひきこもり・ニートを作らない状況とか就労支援につなげていくというところでは、商工関係や福祉関係との連携の中で教育委員会は動かさせていただく、といった状況です。

(委員)

就労支援を社会福祉協議会と連携してやっています。親と子どもがひきこもっている場合は、親を出さないと子どもは出て行かないです。地域全体として親の就労の支援を行いながら子どもさんの支援をしていくことが必要です。不登校を子どもだけではなく、大人も含めた地域全体の問題として捉えていって欲しいと、市長さんにもお願いしたいです。

(委員)

プライバシーの問題とか個人情報保護の問題からか、誰が不登校か、誰がひきこもっているのか、アレルギーは誰が持っているのかということ、他の保護者には情報が共有されていないような気がします。むしろそういうことを地域の人たちがきちんと知ることが大切なのかと思います。そういった意識が醸成されることがひとつの解決になるのかなと考えます。

(市長)

ただ、知られたくないと思う人がいますから、難しい問題ですね。

(委員)

むしろ皆さんに知らせたほうがいいのかもありませんので、良い方法があるといいのですが。

(委 員)

やはり地元には知られたくないというところがあるようです。

(委 員)

少しずつそういうところを変えていけるといいのですが。

(市 長)

他にどうですか。

(委 員)

教育の観点からすると道徳教育の充実が大切だと思います。道徳教育をしっかりすれば小さいじめ等はなくなるのではないのでしょうか。

(市 長)

そうですね。不登校の原因をつきつめたことはあるのでしょうか。

(教 育 長)

百人百様で、真実がわからないことが多いです。本人もわからないということもあります。一斉に指導することが困難で、現在は個別対応しか方法が無いので、本当に難しい問題であります。巡回カウンセラーやスクールカウンセラーなどで個別に対応している状況です。

最近は外国人の児童・生徒が多く入ってきているので外国人のアシスタントを雇ったところ、言葉の問題もなくなり、外国人保護者の対応がよくなりました。他市ではやっていないのでこれは今後も増やしていきたいと思っています。

(市 長)

定住の外国人の方が増えていますからね。必要ならば増やして行ってください。

議題（３）意見交換

得になし。